

2. 上位関連計画

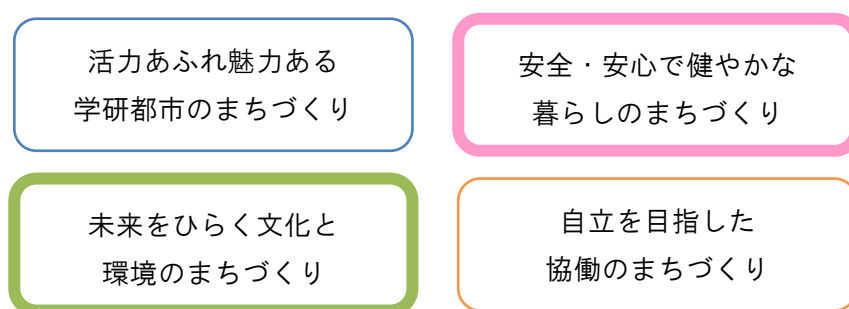
2-1 精華町第 5 次総合計画（平成 25 年 3 月策定）

(1) 計画の概要

神奈備丘陵を臨む木津川流域に位置する精華町は、古くから歴史と文化の香りあふれる農村集落のまちとして成り立ってきました。その歴史を礎に、けいはんな学研都市（関西文化学術研究都市、以下「学研都市」という。）の中心地として都市建設が進められ、我が国が急速な少子高齢化により人口減少局面に入った今日にあっても、なおも都市としての成長を続け、既存集落と新たな市街地が共存する個性あるまちが形成されています。

こうした中で、これまでの 4 次にわたる総合計画で掲げてきた根幹的な理念を継承するとともに、概ね 30 年後の精華町の姿を見据えながら、今後 10 年間のまちづくりの指針として「精華町第 5 次総合計画」が策定されました。

■施策の体系



(2) 安全・安心で健やかな暮らしのまちづくり

学研都市建設に伴う人口の急増と住民ニーズの多様化に対応し、町の古くからの歴史を知る人と、移り住んできて暮らす人、みんなが暮らしやすいまちをつくるため、精華町では、地域における保健・医療・福祉などの活動の連携によって住民生活のサポート体制をきめ細かに充実させてきました。

そして今日、自治会などの地域のコミュニティ活動には、防災・防犯・福祉を軸とした活動の高まりがあり、これが、福祉・環境・教育・文化・健康といった多様な市民活動の広がりや相まって世代を越えた交流を生み、小学校区を単位とする新たなコミュニティの形成につながりつつあります。

■施策の柱

～安全・安心で健やかな暮らしのまちづくり～

施策	1 節 健康・医療	柱①	健康づくり
		柱②	地域医療・生活衛生
		柱③	医療・保険
	2 節 児童福祉	柱①	子育て環境
		柱②	子育て支援
	3 節 高齢・障害福祉	柱①	高齢福祉
		柱②	障害福祉
	4 節 コミュニティ・地域福祉	柱①	コミュニティ
		柱②	地域福祉
	5 節 防災・交通安全	柱①	地域防災・消防
		柱②	浸水対策
		柱③	交通安全・防犯

■「安全・安心で健やかな暮らしのまちづくり」のための施策

施策の柱	施策の概要
健康づくり	● 健康づくりの情報発信や拠点施設整備を進める ● 食生活改善をはじめとする食育の推進により、住民の主体的な健康づくりを促進する
地域医療・生活衛生	● 住民が安心して医療を受けられる環境整備を進める ● 斎場・墓地について広域行政課題として取り組む
医療・保険	● 医療費助成制度の運用と、安定した国民健康保険制度の運用を図る
子育て環境	● 保育所や放課後児童クラブでのきめ細かな保育サービスと「待機児童ゼロ」の堅持、保育環境の充実に努める
子育て支援	● 子育て支援の中核施設の整備・充実に努める
高齢福祉	● 健康づくり・介護予防の推進と高齢期の社会参画機会の拡充を図る ● 地域包括ケアシステムの構築強化を図る ● 安定した介護保険制度の運用を図る ● 認知症対策の強化と家族介護支援の充実に取り組む
障害福祉	● 地域生活支援や就労支援などの課題に対応したサービス基盤の整備を図る
コミュニティー	● 自治会活動がしやすい環境を整備する ● 小学校区単位での防災や防犯の取り組みなどによる地域力の強化とコミュニティー拠点の確保
地域福祉	● 地域福祉活動の推進体制の充実に努める
地域防災・消防	● 地域防災計画の充実に努める ● 業務継続計画（BCP）の策定や災害時の活動拠点となる消防庁舎の改築を進める ● 自主防災組織の充実に努める ● 近隣自治体や関係協力企業などとの連携強化を図る
浸水対策	● 河川整備や雨水路整備による排水能力向上に努める ● しゅんせつ 浚渫による水路などの疎通能力の確保に努める
交通安全・防犯	● 交通安全施設の整備を図るとともに、住民の交通安全意識を高める ● 住民の防犯意識高揚を図るとともに、警察との連携強化に向けた取り組みを行う

(3)未来をひらく文化と環境のまちづくり

精華町には寺社や遺跡が多く残り、京都府の無形民俗文化財に指定されている「いごもり祭」や「おんごろどん」などの伝統行事が今日まで継承されています。また、学研都市の中心地にふさわしい先進的な研究開発の蓄積を基に、持続可能な社会経済システムづくりへの寄与が目指され、多くの住民が様々な社会実証に関わり始めています。

こうしたまちの資産を活かし、町内の小中学校では、学研都市の立地機関と連携した理科教育や、農家の協力による農業体験など、特色ある教育を展開してきました。

■施策の柱

～未来をひらく文化と環境のまちづくり～



出典：精華町第5次総合計画

■「未来をひらく文化と環境のまちづくり」のための施策（教育・生涯学習に関するもの）

施策の柱	施策の概要
教育振興	- 時代の変化に対応できる心豊かな子どもたちを育むため、学研都市の資源を活かした創意ある教育活動を展開し、子どもたちに魅力ある学校教育を推進する 家庭や地域にとって開かれた学校づくりを図り、地域と学校が一体となって、子どもたちを守り育てる教育に取り組む
教育環境	- 中学校施設の耐震化を早期に完了させる - 各学校に空調設備を完備し、バリアフリーを進め、快適で誰もが安心して学べる教育環境を整備する 中学校への給食導入を進め、食育の推進を図る
歴史	- 資料の収集や調査・研究、保存に努め、歴史民俗資料館の建設に向けた取り組みを進める - 住民が文化財や史跡などに接する機会の増加を図る
文化活動	- 精華町文化協会と連携して各種の文化振興施策を展開する 各種公共施設が様々な文化芸術の活動で盛んに活用されるよう推進する
スポーツ活動	- NPO 法人精華町体育協会と連携して各種のスポーツ振興を展開する スポーツ施設を計画的に整備し、スポーツに親しむ人の増加を目指す

2-2精華町都市計画マスタープラン（平成27年3月）

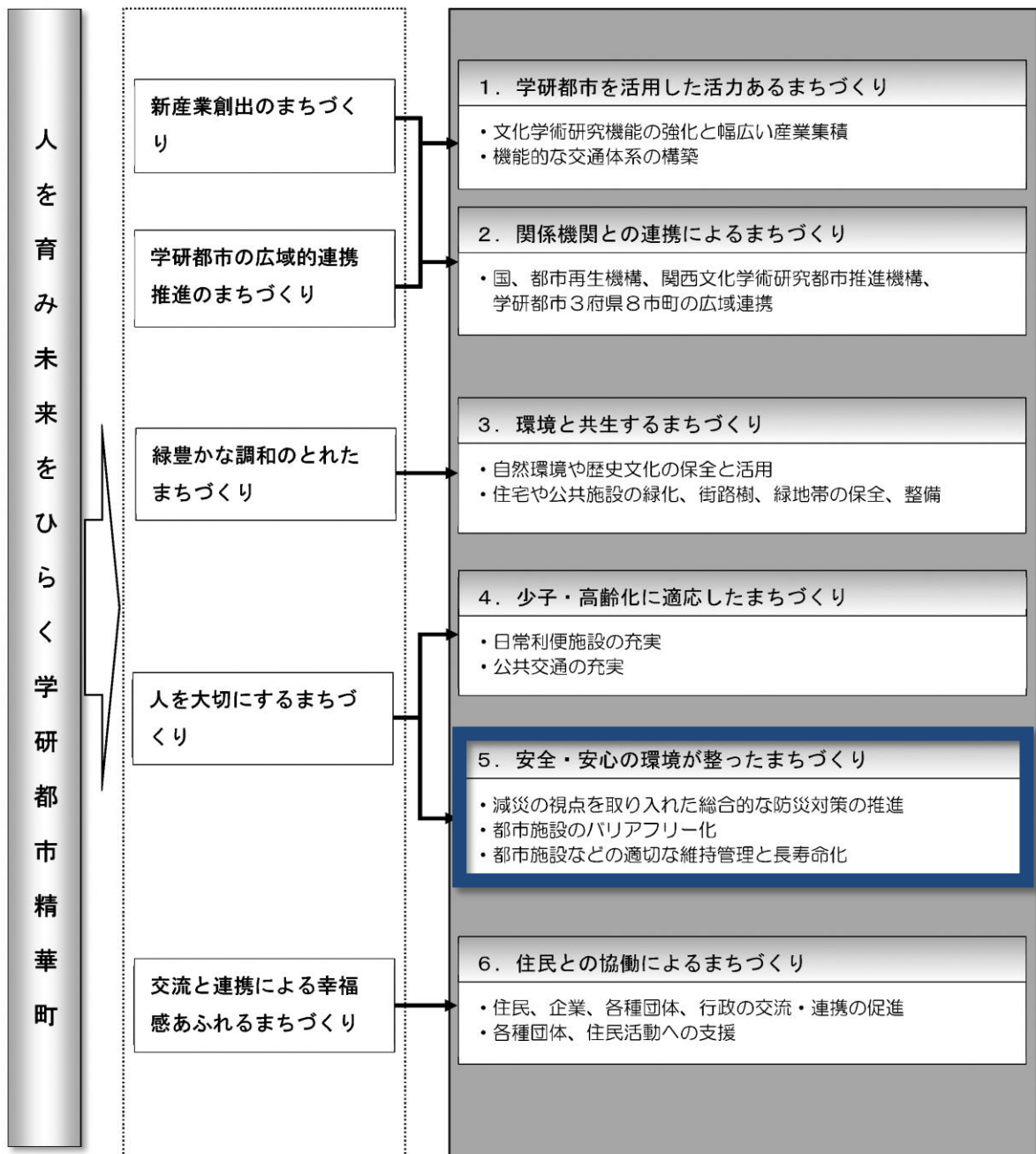
(1)基本方針

「精華町都市計画マスタープラン」には「精華町第5次総合計画」において設定されたまちづくりの基本理念及び目指すべき都市像を実現するための6つの基本方針が定められています。

【めざすべき都市像】

【まちづくりの基本理念】

【まちづくりの基本方針】



(2)安全・安心の環境が整ったまちづくり

6つの基本方針のうち、今回のまちづくり構想策定の目的である「安全・安心の環境が整ったまちづくり」を実現するためには、次のような方向性が示されています。

- ・ 大規模地震や集中豪雨などによる災害へ対応するため、「精華町地域防災計画」に基づき、**災害に強いまちづくり**に努めます。
- ・ ハード面での整備に加え、防災情報の適切な提供や防災訓練の実施、災害危険箇所への住宅立地抑制策など減災の視点を取り入れた総合的な防災対策を推進し、安全・安心の環境が整ったまちづくりを進めます。
- ・ 住民の意向を十分に踏まえ、住民自らの手による安全なまちづくりの機運を高めるとともに、多様な手法と諸制度を活用し、**ハード、ソフトの両面から安全で快適なまちづくり**を目指します。
- ・ すべての住民、来訪者が安全にかつ安心して過ごせるまちづくりを進めるため、道路、公園などの都市施設、その他不特定多数の方が利用する建築物のバリアフリー化を推進します。
- ・ 都市施設を適切に維持するため、持続可能な施設管理体制の構築を図るとともに、長寿命化を推進し、機能の維持とライフサイクルコストの低減を効果的に図ります。

2-4 精華町学校給食基本構想（平成 30 年 3 月）

「精華町食育推進基本方針」の策定に続いて、小学校から中学校までの 9 年間を通じた一貫した食育の「生きた教材」となる学校給食を運営するために策定されました。学校給食を通じて、次世代を担う子どもたちにどのような力を習得させるか、どのような地域づくりを進めるか、基本的な考え方を示しています。

なお、平成 25 年に定めた「精華町立中学校における学校給食の実施に関する基本的事項」を引き継ぎ、「給食センター方式」「精華中学校敷地内での設置」を前提に検討が進められています。



(参考) 精華町立中学校における学校給食の実施に関する基本的事項の概要

1. 中学校給食の実施方式

センター方式により 3 中学校同時に実施する。

2. 設置場所

3 中学校の施設の現状から、現在改築に向け設計を進めている精華中学校の敷地（現校舎跡地）を利用して給食センターを設置する。

3. 実施時期

精華中学校校舎改築工事の完成後、小中学校への空調設備設置時期との調整を図りながら進める。

■給食の見込食数

平成 29 年度の生徒数と教職員数を基に、若干の余裕を持たせた 1,500 食が 1 日あたりの調理能力として設定されています。

	実績数（平成 29 年 5 月 1 日）			給食の 見込食数（食）
	生徒数（人）	教職員数（人）	合計（人）	
精華中学校	388	32	420	1,500
精華南中学校	162	24	186	
精華西中学校	588	41	629	
合計	1,138	97	1,235	

■建設予定地

精華中学校敷地を活用した建設を予定し、敷地 1,460 ㎡を見込み、建築面積としては約 800 ㎡を想定しています。

■周辺環境への配慮

精華中学校敷地内に学校給食センターを建設する場合、周辺環境に与える影響として搬入出経路が周辺の交通に与える影響、給食を調理する際の騒音・臭気が特に懸念されます。

これらの懸念事項への対応として、次のような方向性が示されています。

懸念事項	対応の方向性
物資納入車両の往来 （通勤・通学時間と搬入出時間帯が重なる恐れ）	● 納入業者への注意喚起 ● 地域への十分な配慮
精華中学校から 精華南中学校・精華西中学校への配送	● 安全かつ確実な配送に努める
騒音・臭気・振動の発生	● 発生原因となる設備を住宅側からできるだけ遠ざける ● 遮音効果の高い部材の使用 ● 臭気ダクトの設置 ● 低騒音・低振動型の厨房機器の選定

3. 市民のニーズ

3-1 精華町のまちづくりに関するアンケート（平成 26 年 1 月）

都市計画マスタープラン改訂時に行われた「精華町のまちづくりに関するアンケート」（平成 26 年 1 月実施）によると、地域で問題になっている点については「日常生活のための店舗が不足している」（32.0%）、「鉄道、バスなどの公共交通が不便である」（24.7%）が上位を占めています。

■問題となっている点に対する上位回答（校区ごと）



日常の交通手段としては「自家用車」が 56.7%と回答の半数以上を占めており、路線バス・精華くるりんバスの利用は 8.3%とあまり利用されていないことが分かります。（ただし、東光小学校区、山田荘小学校区ではバスの利用が 14%程度となっており比較的利用が多い。）

今後のまちづくりで活用したい地域資源については、「気軽にレクリエーションを楽しめる公園や緑地、広場、散歩道」（51.0%）、「緑豊かで秩序のとれた街並み」（43.3%）が上位を占めています。

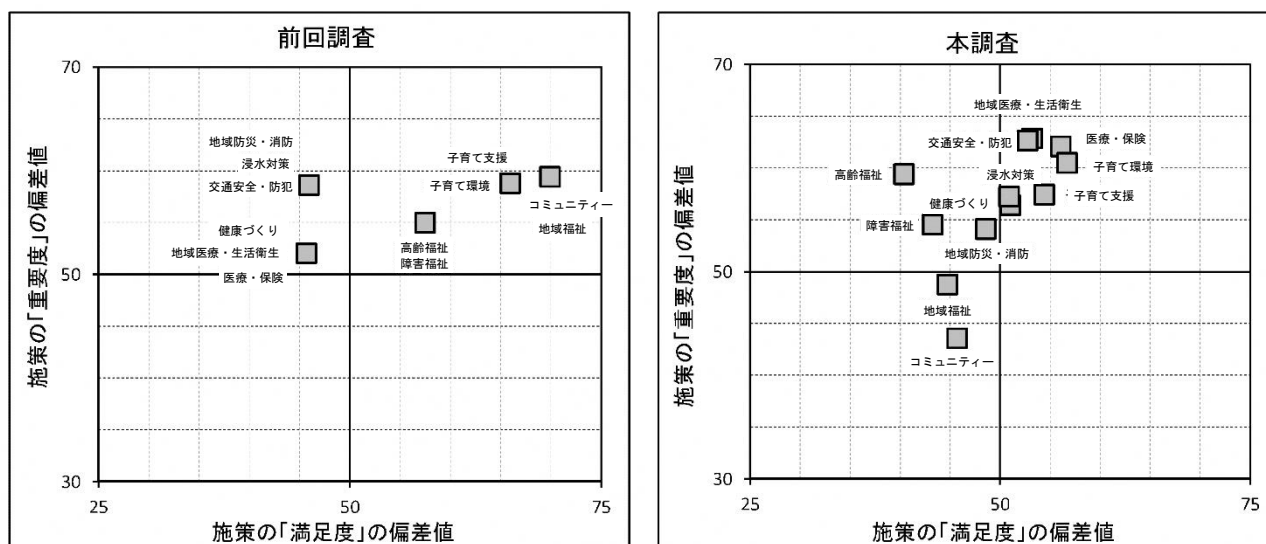
3-1 精華町第 5 次総合計画中間評価に向けた住民意識調査（平成 29 年 1 月）

精華町の最上位計画である「精華町第 5 次総合計画」の中間評価を行うにあたり、まちの現状に対する住民意識や、中長期のまちづくりに対する住民意見を広く把握するために調査が行われました。

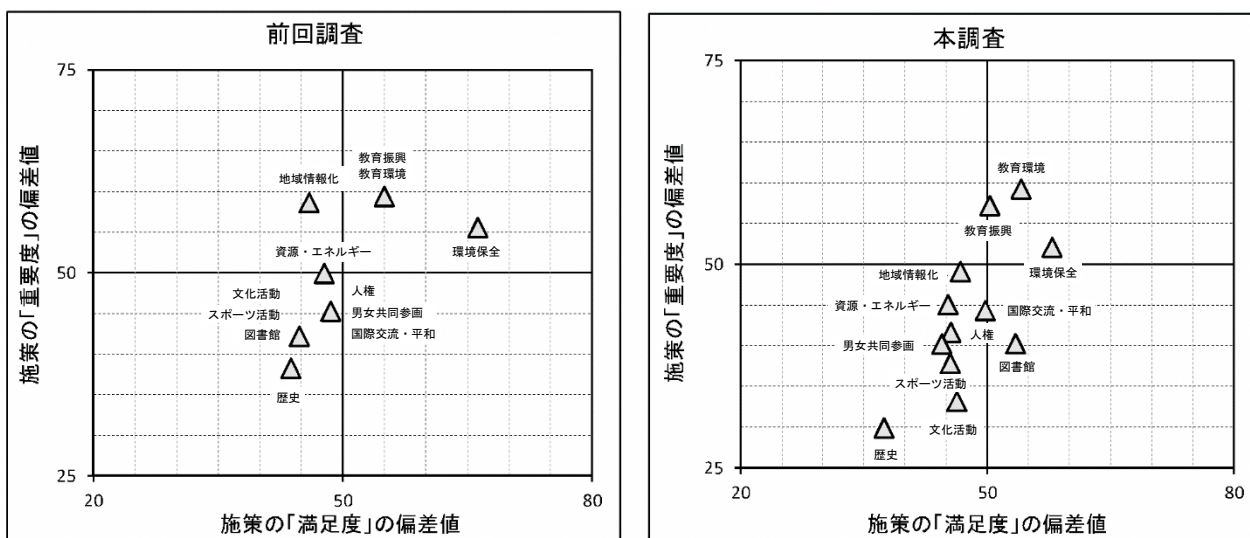
本調査では「精華町第 5 次総合計画」の 4 つの領域、41 の施策について目標像に対する「満足度」と、これからのまちづくりにおける「重要度」を、それぞれ 5 段階で評価する問いが設けられており、「安全・安心で健やかな暮らしのまちづくり」に関する施策は全体的に高い重要度を維持していますが、満足度が低下しており、「コミュニティー」「地域福祉」については「満足度」「重要度」ともに低下しています。

また、「未来をひらく文化と環境のまちづくり」に関しては、全般的に「重要度」が低下していますが、「教育振興」「教育環境」など、教育面での施策の「重要度」は高い水準を維持しています。

■「安全・安心で健やかな暮らしのまちづくり」に関する満足度と重要度



■「未来をひらく文化と環境のまちづくり」に関する満足度と重要度



※ 前回調査とは「精華町第 5 次総合計画」策定時（平成 23 年度）に実施した調査のこと

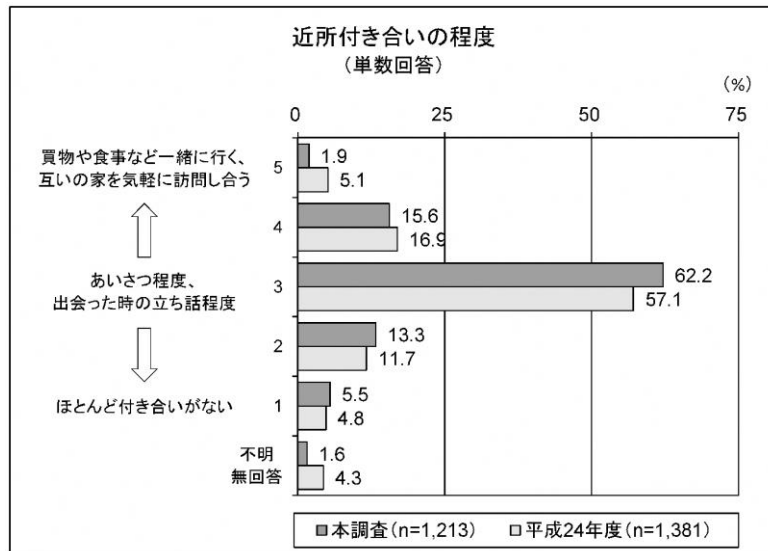
※ 本調査とは平成 28 年度に実施された上記住民意識調査のこと

※ 前回調査と本調査では柱の区分や施策数が異なるため、前回調査の各施策を本調査の施策に対応させ経年比較が行われています

(構想素案)

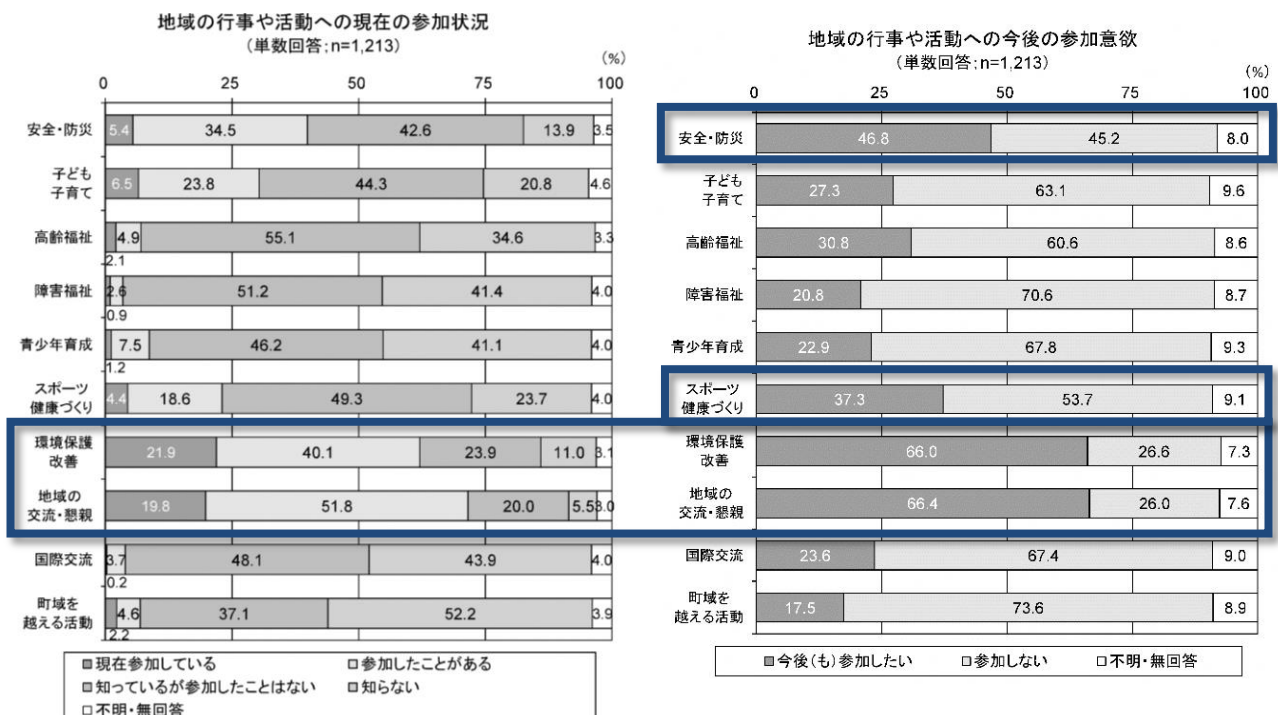
近所付き合いの程度について「5点（買物や食事など一緒に行く、互いの家を気軽に訪問し合う）」から「1点（ほとんど付き合いがない）」までの5段階で評価を求めたところ、最も多かったのは「3点（あいさつ程度、出会った時の立ち話程度）」（62.2%）であり、「不明・無回答」を除く平均点が、前回調査で3.06点であったのに対し、本調査では2.95点と減少しています。

■近所づきあいの程度に対する回答の変化



地域の行事や活動への今後の参加意向については、既に参加率が高い「環境保護改善」「地域の交流・懇親」で「今後（も）参加したい」という回答が多くなっており、次いで「安全・防災」「スポーツ健康づくり」への回答が多くなっています。

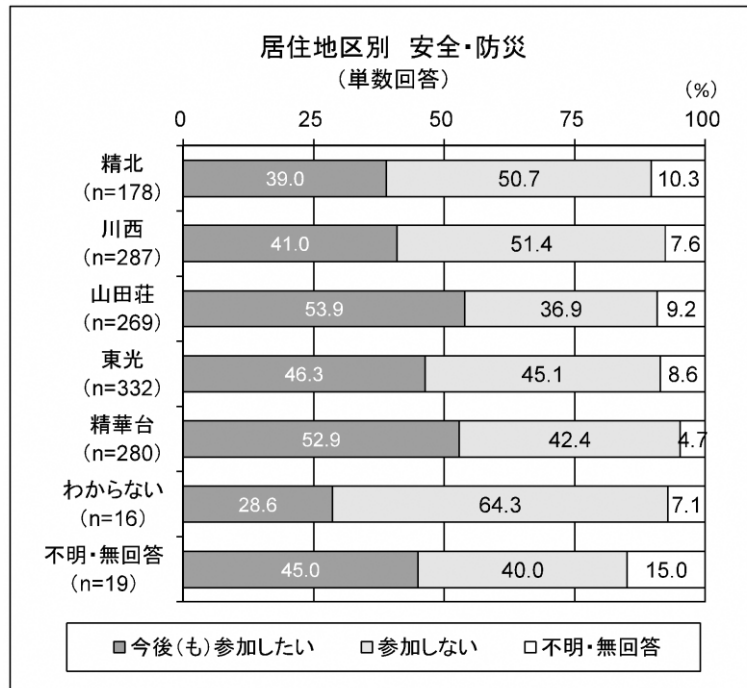
■地域の行事や活動への現在の参加状況と今後の参加意欲



(構想素案)

なお、「安全・防災」に関する現在の参加状況を見ると、「精北」「川西」で「参加したことがある」という回答が少なくなっています。

■地域の安全・防災に関する行事や活動への今後の参加意向（地区別）



(構想素案)

(参考)「安全・安心で健やかな暮らしのまちづくり」に関する施策の中間評価(平成30年3月)

節	施策の柱	施策の総括	統括課
健康・医療	健康づくり	重要度、満足度が向上し、住民の健康づくりの意識が醸成されつつある。さらなる 健康づくりの推進に向け、拠点となる施設の整備を	健康福祉環境部 健康推進課
	地域医療・生活衛生	満足度が向上しているが重要度に見合った満足度に至っておらず、住民の救急診療への関心が高いことが伺える。「相楽休日診療所」のさらなる認知向上へ	健康福祉環境部 健康推進課
	医療・保険	指標「特定健診受診率」は向上しているものの目標は未達成。細やかなアプローチでさらなる受診率の向上へ	住民部 国保医療課
児童福祉	子育て環境	重要度、満足度は高い状態で推移。また、待機児童ゼロも維持。保育所定員増に向けた対策のさらなる充実と保育の質の確保とさらなる向上を	健康福祉環境部 子育て支援課
		放課後児童クラブの定員増に向けた対策の充実を	
	子育て支援	住民の満足度はやや高い状態を維持	健康福祉環境部 子育て支援課
		医療助成の対象を中学校卒業までに拡充 子育て支援の中核を担う施設の整備や社会的養護のさらなる充実を	
障害福祉・高齢福祉	高齢福祉	地域での介護予防、高齢者の社会参加の促進、生きがいのづくりの支援などのさらなる充実を	健康福祉環境部 福祉課
	障害福祉	障害のある人が自立できる支援などの環境整備の充実を	健康福祉環境部 福祉課
コミュニティ・地域福祉	コミュニティ	自治会加入率は85%を維持しているが、重要度、満足度は低く、住民の関心の低下が伺える	総務部 総務課
		高齢化が進展する中で、自治会のあり方や集会所の長寿命化対策の推進を	
	地域福祉	ボランティア数、団体数は増加。「せいか絆ネットワーク」などの推進による地域の福祉力の向上へ	健康福祉環境部 福祉課
防災・交通安全	地域防災・消防	指標「自主防災組織結成率」は中間目標値を達成。防災に係る防災行政無線、消防庁舎の改築などハード面の整備も一定完了	消防本部・署
		今後は、自治会や地域防災組織などソフト面のさらなる充実へ	
	浸水対策	煤谷川河川等の計画的な整備により浸水対策が向上。満足度も向上	上下水道部 下水道課
		近年の降雨状況と財政状況を踏まえ、九百石川をはじめとした一層の計画的な浸水対策の推進を	
	交通安全・防犯	指標「交通事故発生件数」「犯罪発生件数」は期末目標も達成。一方で住民の関心が高く「安全・安心」への不安感も一定ある	総務部 総務課
		住民が「安全・安心」を体感できる取り組みの継続を	

(構想素案)

(参考)「未来をひらく文化と環境のまちづくり」に関する施策の中間評価※(平成30年3月)

節	施策の柱	施策の総括	統括課
学校教育	教育振興	指標「学校図書蔵書達成率」「学研立地機関等出前授業件数」は中間目標値を達成。	教育部 学校教育課
		学力向上に係る取り組み、児童・生徒が安心して相談できる仕組みのさらなる充実へ	
	教育環境	小中学校の耐震化工事、平成29年度には中学校の普通教室などへの空調設備の整備が完了	教育部 学校教育課
		小学校への空調設備の整備、中学校給食の実施でさらなる教育環境の充実へ	
生涯学習	歴史	指標「歴史・文化財に関する講演会参加者数」は期末目標も達成。文化財の適切な保護を図るとともに「せいか舎」での活用を	教育部 生涯学習課
	文化活動	指標は未達成だが、社会教育文化サークル登録団体数は増加しており、住民の文化活動は活性化している	教育部 生涯学習課
		文化サークル団体が活発に活動できるよう、さらなる環境づくりを	
	スポーツ活動	スポーツ施設利用者数は横ばい、スポーツクラブ登録会員数は減少傾向にあり、スポーツ活動のさらなる振興を	教育部 生涯学習課

※教育及び生涯学習に関するもののみを記載

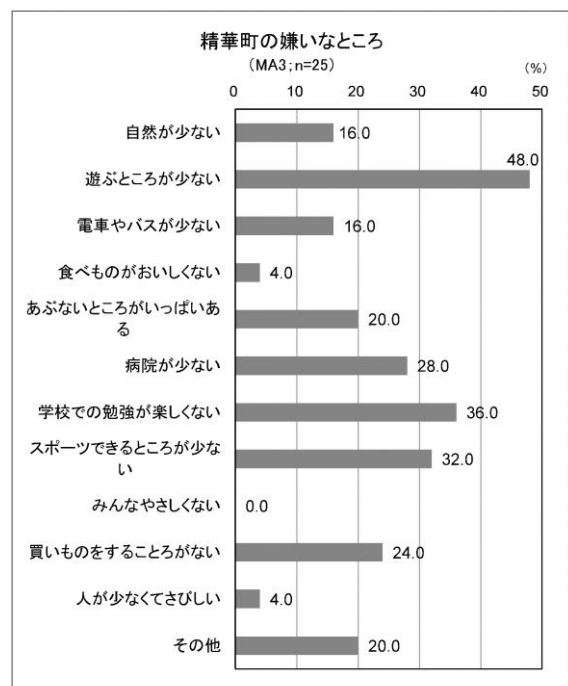
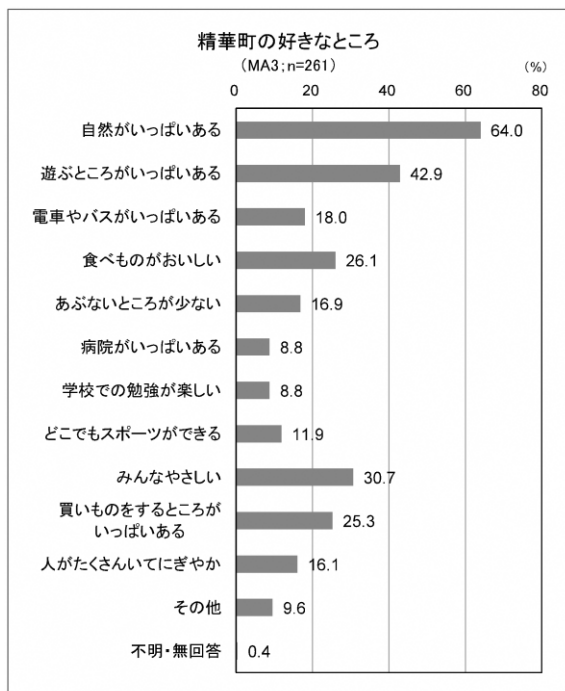
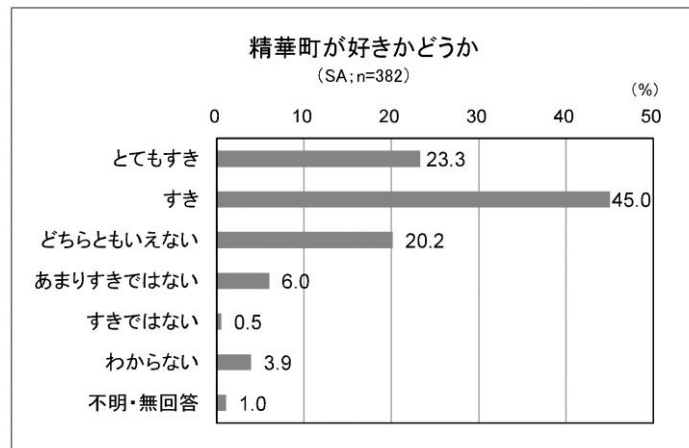
3-2 精華町のまちづくりに関する小学 6 年生・中学 3 年生アンケート調査（平成 28 年 6 月）

精華町の最上位計画である「精華町第 5 次総合計画」の中間評価を行うにあたり、また今後のまちづくりの基礎資料とするため、次代を担う若い世代を代表して町内の全小学 6 年生、中学 3 年を対象にアンケート調査が実施されました。

(1) 小学 6 年生アンケート調査結果

精華町に対する好意については、「すき」（45.0%）が最も多く、次いで「とてもすき」（23.3%）、「どちらともいえない」（20.2%）が続きます。

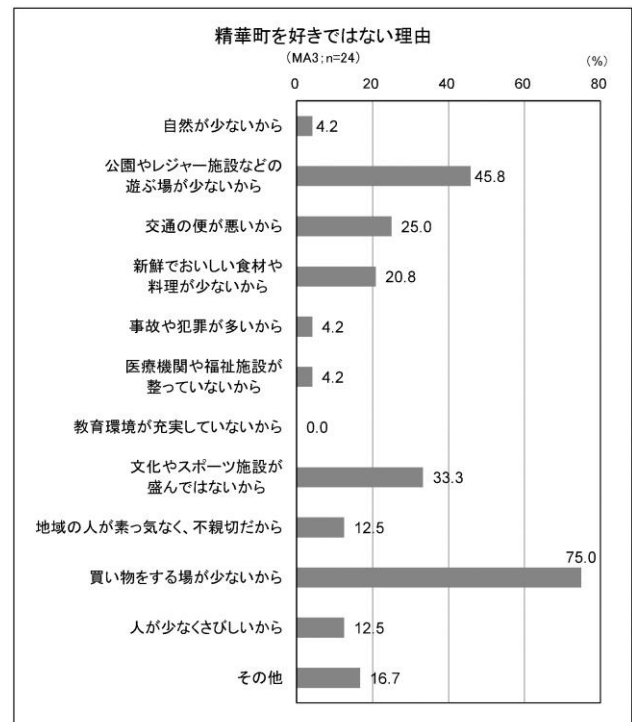
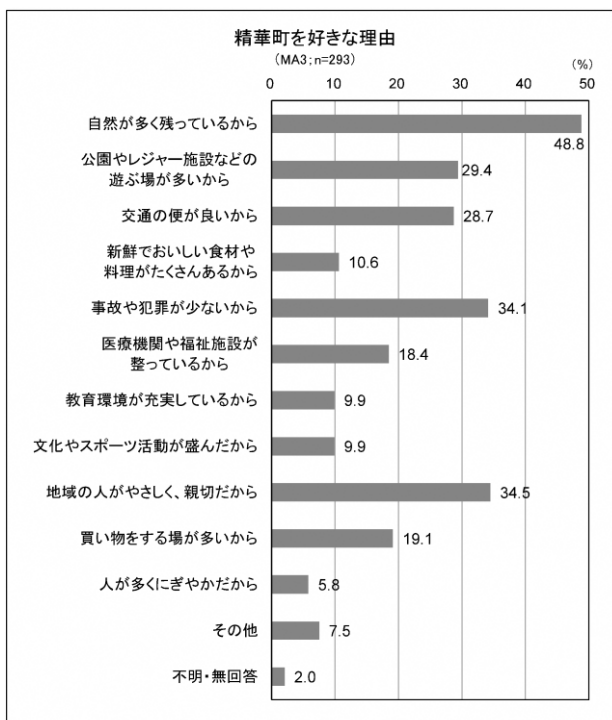
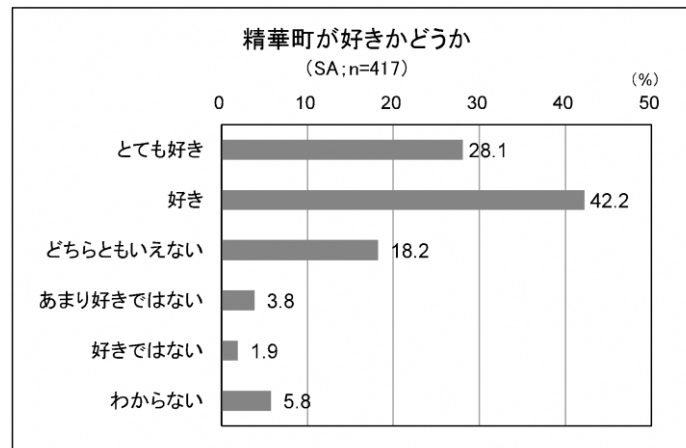
精華町を好きな理由として最も多いものは「自然がいっぱいある」（64.0%）であり、逆に嫌いな理由としては「遊ぶところが少ない」（48.0%）、「学校での勉強が楽しくない」（36.0%）、「スポーツできるところが少ない」（32.0%）などが挙げられています。



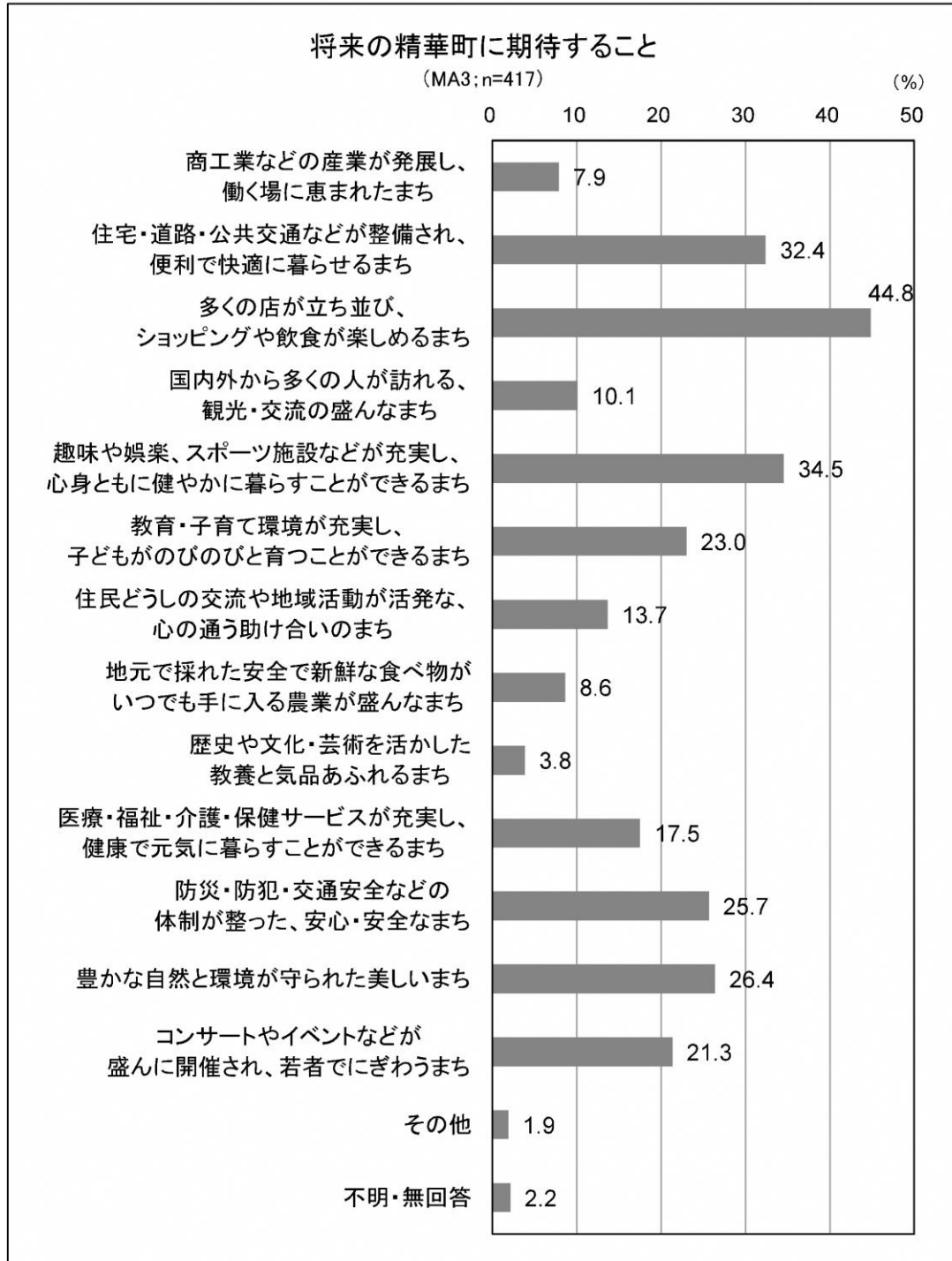
(2) 中学 3 年生アンケート調査結果

精華町に対する好意については、「好き」(42.2%)が最も多く、次いで「とても好き」(28.1%)、「どちらともいえない」(18.2%)が続きます。

精華町を好きな理由として最も多いものは「自然が多く残っているから」(48.8%)であり、逆に嫌いな理由としては「買い物をする場が少ないから」(75.0%)、「公園やレジャー施設などの遊ぶ場が少ないから」(45.8%)、「文化やスポーツ施設が盛んではないから」(33.3%)などが挙げられています。

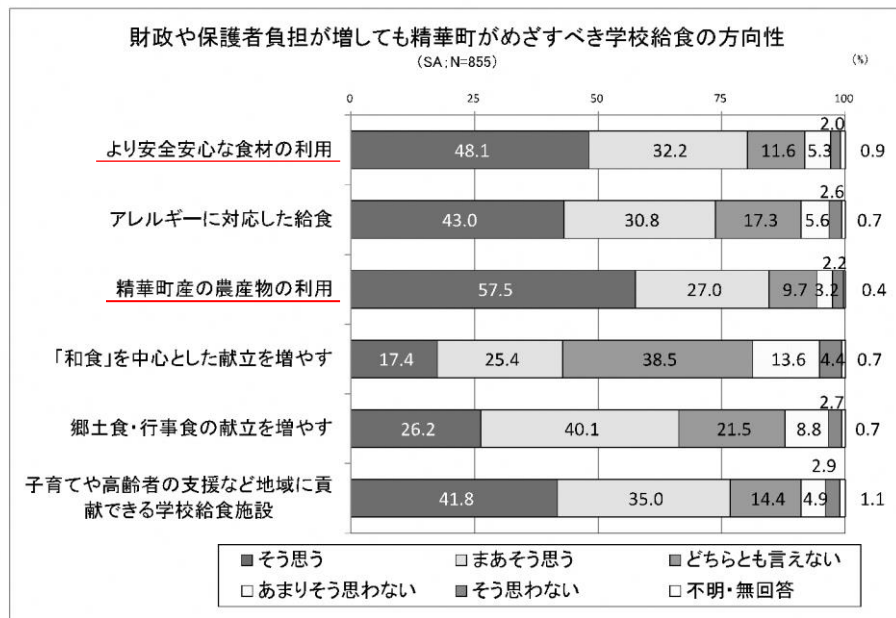


また、将来の精華町に期待することとしては、「多くの店が立ち並び、ショッピングや飲食が楽しめるまち」(44.8%)が最も多く、次いで「趣味や娯楽、スポーツ施設などが充実し、心身ともに健やかに暮らすことができるまち」(35.4%)となっています。

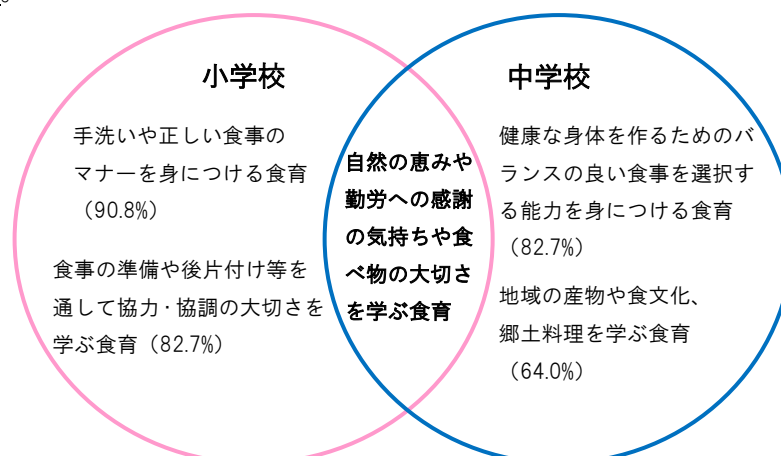


3-3 精華町学校給食基本構想に向けた住民アンケート（平成 29 年 2 月）

学校給食基本構想策定時に行われた「精華町学校給食基本構想に向けた住民アンケート調査」（平成 29 年 2 月実施）によると、精華町がめざすべき学校給食の方向としては、「精華町産の農産物の利用」（57.5%）、「より安全安心な食材の利用」（48.1%）が上位を占めています。



学校給食を通じた食育として期待することにおいては、「小学生」では「手洗いや正しい食事のマナーを身につける食育」（90.8%）、「食事の準備や後片付け等を通して、協力・協調の大切さを学ぶ食育」（86.3%）、「中学生」では、「健康な身体を作るためのバランスの良い食事を選択する能力を身につける食育」（82.7%）、「地域の産物や食文化、郷土料理を学ぶ食育」（64.0%）が上位を占めており、「小学生」「中学生」とともに「自然の恵みや勤労への感謝の気持ちや食べ物の大切さを学ぶ食育」が期待されています。



中学校給食施設をまちづくりの施設として捉えた場合に必要な機能としては、「少子高齢化を見据えて施設の縮減・転用（高齢者向けの配食サービスなど）を可能とした施設」（64.8%）、「災害時などにおける町の防災拠点」（61.5%）が多く望まれています。